房日新聞

2020年（令和２年）10月２日（金曜日）

心 「親を思う心」を育てる

若いころは仕事一筋で、頼もしく思えた親の背中。子供を育て上げて仕事も引退したら、肩の荷が下りて穏やかな老後を過ごしてくれるだろうと思ったのに、途端に元気がなくなってしまった――そんな心配をお持ちの方もあるのではないでしょうか。

人は誰でも自分の役割を認められてこそ、生きがいを感じます。親もまた同じではないでしょうか。身体的・経済的には子供の援助を受けるようになったとしても、親として子供に認められ続けることは、親の喜びです。

核家族化が進む現代では、親子が離れて暮らす家庭も多くなり、子供は親の思いに気づきにくくなっているのかもしれません。しかし、自分を育ててくれた両親の節（ふし）くれだった手を、そして優しい笑顔を、時に思い起こしてみませんか。「親を思う心」を育てていくことは、私たち自身の心を成長させる鍵にもなるのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化――ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp　TEL:04-7173-3155

2020年（令和２年）10月16日（金曜日）

心 ならぬことはならぬ

江戸時代の会津（あいづ）藩（現在の福島県）は、子弟の教育に力を入れたことで知られます。藩校に入学する前の子供たちは、同じ町内の子供同士で「什（じゅう）」と呼ばれる十人程度の集団をつくり、そこで「嘘（うそ）を言ってはならない」「卑怯（ひきょう）なふるまいをしてはならない」「弱い者をいじめてはならない」などの約束事を守るように努めました。この「什の掟（おきて）」の最後は、「ならぬことはならぬものです」という言葉で締めくくられています。

ならぬことはならぬ――短いながら、現代の私たちにも強く響いてくる言葉です。

もちろん掟の内容は、武家社会の道徳を反映したものですから、現代にはそぐわないものも含まれています。しかし、社会生活の基本的なマナーやモラルが見失われている現代において、子供たちが自分を律していくための善悪の基準を示すことは、大切なことではないでしょうか。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化――ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp　TEL:04-7173-3155

2020年（令和２年）10月23日（金曜日）

心 「傾聴」から生まれる癒しの力

私たちは、人に話をすることで〝自分を受けとめてもらえた〟と感じます。話すことで、心にたまった緊張感やストレスを外に出し、自分の気持ちを浄化することができるのです。それは「癒（いや）し」や「心の安寧（あんねい）」にもつながるものでしょう。

「傾聴ボランティア」を続けている人は、「傾聴とは、相手の話を自分の評価や批判、意見をいっさい挟まずに、心を込めて聞くこと」であるといいます。「話を聞く」という行為も、意思を主体的にはたらかせなければできないことです。ぼんやりしていたり、聞き流したりするような態度では、人の心は癒せません。相手が真摯（しんし）に聞くからこそ、話すほうも話を深めることができるのです。

「心を込めて話を聞く」ということを、日々、心がけていきたいものです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化――ヒントの泉

掲載日から２日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp　TEL:04-7173-3155

房日新聞

2020年（令和２年）10月30日（金曜日）

心 「知識」を真に生かすもの

「いい学校を卒業すれば、その後の人生は保証される」――これは本当でしょうか。

私たちは、ともすると知識や学歴に絶対的な価値があり、人間としての価値を決定するものであるかのように錯覚していることがあります。しかし知識は、それ自体に価値があるわけではありません。知識をなんのために、どのように生かしていくかが重要です。それを知るのが「学ぶこと」の意味であり、目的なのではないでしょうか。

道徳で人と社会を幸せに

知識を真に生かすのは、その人の「人柄」です。だからこそ、道徳性や人間性、つまり心を育てる教育が必要とされるのです。

大人世代は、学ぶことの意味や目的を次世代にしっかりと伝えていくためにも、まず次世代の子供たちにどのような人間になってほしいのかを、自分の生き方と照らし合わせ、あらためて問い直していく必要があるのではないでしょうか。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）11月６日（金曜日）

心 「やわらかい心」を育てる

日本人は「察し」という文化的な独自性を持っているのだと説いたのは、評論家の会田雄次（あいだゆうじ）氏から（一九一六～一九九七）です（参考＝『日本人の意識構造』講談社）。

「察し」の「察」には、「よくみる、しらべる、おしはかる」のほかに、「思いやる、同情する」という意味があります。相手の立場を察する心は、相手の立場に立ったり、考えたり、視点を変えたりする「思いやり」の基本的な力になるのです。

いろいろな立場で物事を考えられないのは、心が老化し、柔軟に考える力が弱まって、心が固くなっているからではないでしょうか。固い心からは、相手や周囲を思いやるゆとりは生まれません。一方、立場を変えてみると視野は広がります。また、公平な第三者の立場に立つことは自己の高まり、あるいは心の深まりにもつながっていくことでしょう。固い心をほぐし、「やわらかい心」を育てたいものです。

道徳で人と社会を幸せに

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）11月13日（金曜日）

心 心の貯金箱

ある小学校でのお話です。「心の貯金箱」と名づけた空き瓶を教室に置いて、クラスの子供たちが「うれしかったこと」「楽しかったこと」「友だちのよいところ」などを書き込んだ紙を入れていくことになりました。

やがて、瓶三本が小さな紙でいっぱいになりました。そこに記された言葉は「○○ちゃんが掃除を手伝ってくれた。ありがとう」「○○君が傘を貸してくれて、とてもうれしかった」など……。そしてこの実践を始めてから、子供たちの間で感謝の言葉や人を褒（ほ）める言葉が多くなってきたそうです。

思いやりを実践するには、まず日ごろの生活の中で人の美点を見いだすなど、人を思う温かい心を育んでいくことが大切ではないでしょうか。いつも気にかけ、心に留めていることは、とっさのときにも言葉や行動として表れてくるでしょう。

道徳で人と社会を幸せに

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

房日新聞

2020年（令和２年）11月20日（金曜日）

心 「理解する」とは相手の下に立つこと

国立教育研究所長などを務めた平塚益徳（ひらつかますのり）氏（一九〇七～一九八一）は、「アンダースタンド（理解する）という言葉の語源は『下に立つ』ということ。相手を尊敬し、相手から学び取ろうとする謙虚な精神があって、本当の理解ができる」と述べています。

一人ひとり違った「心」を持つ私たちにとって、本当の意味で相手を理解するのは難しいことです。だからこそ、自分から相手に歩み寄り、相手の心に寄り添おうとする努力が必要になるのです。それは親が子供に対するとき、上級生が下級生に接するとき、または親しい友人との間であっても「上」や「横」に立つことではありません。「相手よりも下に立つ」というほどの謙虚な心づかいで相手を思いやったときに、はじめて相手の心の一端が見えてくるのかもしれません。かけがえのない人間関係は、そこから築かれていくのではないでしょうか。

道徳で人と社会を幸せに

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp　TEL:04-7173-3155

2020年（令和２年）11月27日（金曜日）

心 時代を超える価値

困っている人を見かけると、自然に助けたいという気持ちが湧（わ）き起こるものでしょう。それは私たちが皆、心の中に「慈愛の心」を宿しているからです。

「人の役に立ちたい」という私たちの素直な気持ちも、そうした心の表れです。自分さえよければ、自分たちさえ楽しければよいという自分中心の心を見直して、日々の暮らしの中で、身近なところから優しさを発揮していくことは、真に自分を生かすことにつながるだけでなく、次の世代にも生き方の模範を示すことができるのではないでしょうか。

私たちは、自分の中に宿る「慈愛の心」をあらためて見つめ、その価値に気づいて、その心を大いに発揮していきたいものです。それは、よりよい自分づくり、そして思いやりに満ちた温かい社会づくりにもつながっていくことでしょう。

道徳で人と社会を幸せに

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp　TEL:04-7173-3155

2020年（令和２年）12月４日（金曜日）

心 人生の歩みに思いを馳せる

お年寄りは、私たちの人生の先輩です。最近は平均寿命が延び、元気で若々しく、活動的な高齢者が増えました。若い世代以上に生き生きとボランティア活動などに取り組む方も、大勢いらっしゃいます。

しかしその方々も、長い人生の途上では順調なときもあれば、耐え難い苦しみを味わったこともあったでしょう。そうした中で、家庭の幸せやわが子の健やかな成長をひたむきに願い、喜びと苦しみを分かち合って、その人生を築いてこられたのです。

私たちは、そうした人生の歩みに思いを馳（は）せ、お年寄りを敬う心を培（つちか）っていきたいものです。同時に若い世代は、老いても知力、体力、創造力を発揮して生きるお年寄りの姿から、その人生の知恵と経験に学んでいくことを忘れてはならないでしょう。

道徳で人と社会を幸せに

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail:book@moralogy.jp　TEL:04-7173-3155

房日新聞

2020年（令和２年）12月11日（金曜日）

心 生き方を変えるチャンス

心づかいは目には見えませんが、隠そうとしても隠しきれるものではありません。表情や言葉、態度、行動などに表れ、いつとはなしに周囲にも伝わっていきます。

私たちの心は、日々の生活の中で、人を思いやり、優しく慰めるといった「よいはたらき」もしますが、人を責めたり、傷つけたりという「悪いはたらき」もします。悪いほうの心づかいを積み重ねていけば、人生のある時期になって、人間関係を中心に何かしらの問題が表れてくるかもしれません。今まで問題なく過ごしていた人が、「どうしてこんなことになってしまったのだろう」「いつ道を間違えたのだろう」といった言葉をもらすこともあるものです。

しかし問題が表れたときこそ、自分自身の生き方――日々の小さな行いと心づかいを見直し、これを変えていくチャンスなのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）12月18日（金曜日）

心 ありのままの姿を受け入れる

親は、子供の持っている性格や気質の欠点に目がいくものです。時には、子供の欠点が自分の欠点そのものであることに気づいて、呆然（ぼうぜん）とすることがあります。自分の子を前にして、いつも自分自身と対面しているような思いを味わうのが、親のつらさともいえます。そのとき親が〝この子の、この欠点がなければよかったのに〟と思ったなら、それはある意味で、子供の全部を受け入れていないことになるでしょう。

しかし、どの子も皆、〝そのままの自分を見てほしい、愛してほしい〟と思っているはずです。子供の長所も短所もすべてをまるごと受けとめ、優しく包み込む。そして親子の気持ちが響き合うようにしていくことが大切ではないでしょうか。そのためには、まず親自身が自分のありのままの姿を認め、自分自身の長所も短所も、そのまま受け入れる必要があるのです。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155

2020年（令和２年）12月25日（金曜日）

心 心の中の「大切な人」

人の視線がない場所で、知らず知らずのうちに姿勢が悪くなっていることはありませんか。私たちの生き方や心の状態にも、背筋がピンと伸びているときと、そうでないときがあるようです。それは〝人のいない場所でだけ〟と思っていても、いつしかふだんの行動や表情、心づかいにも表れてくるものかもしれません。

誘惑に負けそうなときは、自分が親祖先や周囲の人々、そして社会など、多くの恩恵の中で生かされているという事実に思いを馳（は）せてみましょう。心の内に家族や恩人などの「大切に思う人」を持ったとき、自分自身の心の姿勢は自然と正されてくるのではないでしょうか。それは、よりよい人生を歩むための原動力になるはずです。

間もなくお正月を迎えます。新しい一年は、心の中に「自分の大切な人」を抱（いだ）いて過ごしてみませんか。

『ニューモラルの心を育てる言葉366日』

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化―ヒントの泉

掲載日から2日間限定で10名様にプレゼント！
道徳を考える月刊誌『ニューモラル』最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラロジー研究所　〒277-8654 柏市光ケ丘2-1-1
E-mail：book@moralogy.jp　TEL：04-7173-3155